

「対話イン八戸2009」 オプショナル・ツアー 八戸工業大学 視察会メモ

日 時： 平成 22 年 2 月 18 日 10～12 時

大学対応者：安部勝憲教授(異分野融合科学研究所長、原子力教育研究担当)

齋藤正博教授(大学院：機械・生物化学工学専攻、工学部：機械情報技術学科)

田島尚幸書記(社会連携学術推進室)

参加者： 松永一郎、齋藤健彌、小川博巳(記) (敬称略)

研究室視察概要：

機械情報技術・齋藤研

齋藤教授自らご案内頂き、SCCの進展、X 線を利用した亀裂先端部の応力変化の測定など実験研究施設を視察し、ユニークな研究成果のご説明を頂いた。殊に引っ張り亀裂の発生後には、荷重除去後の亀裂先端部応力が圧縮状態にあるとの観測結果には、目を瞠った。

知能システム・関研

関教授のご説明により、反射光利用の液晶により明るく、高解像度・広い視野角を達成したこと、喉頭挿入検査への応用例など最先端技術をご紹介頂いた。

バイオ環境工学・藤田研

藤田准 教授 のご案内で、六ヶ所再処理施設からの排出放射能の微量分析・トレース研究として、八戸・三沢・泊地点沖に於ける微量トリチウム分析、C14分析の実態などを視察させて頂いた。

学年末にも拘らず視察会をアレンジして頂き、阿部・齋藤両教授はじめ研究室の皆様の対応に感謝しつつ、キャンパスを後にした。